



子どもは まちで育つ

校長 村岡 靖

9月も下旬になって、少しずつ秋らしい風が吹くようになってきました。9月に入っても、あまりの暑さに WBGT（暑さ指数）計も警戒音が鳴りっぱなしで、子どもたちが楽しみにしている休み時間も屋内で過ごすことがほとんどでした。久しぶりに外で遊べた時の子どもたちの解放された笑顔は印象的でした。

先日は個別支援級の八景島シーパラダイスへの遠足でした。イルカショーではどの子どもも可愛らしいイルカたちに大興奮でした。とても暑い一日でしたが、みんな満足そうでした。高学年が低学年の子どもたちに本当に優しく接していて、新田小の子どもたちはいい子たちだなと改めて感じました。

今年度は、生活科・総合的な学習の時間の研究を行っています。教員全員が1回の公開授業を通して、学習の質を高めていきます。5月には前横浜国立大学教授、現横浜創英大学学部長の大内美智子先生をお招きして研究会を行いました。生活科や総合的な学習の時間に関する事だけでなく、非認知能力の育成についても大きな御示唆をいただきました。今後も指導主事等を講師に招き、研究を深め、主体的・対話的で深い学びになるように努めてまいります。

生活科・総合的な学習の時間では、机上の学習だけではなく、本物に触れることや、社会の問題に直面させることが学習の質を高めます。まちの方々の協力なしにはできない学習です。6年生のあるクラスは新田のまちで働く人々にスポットライトをあてて学習しています。先日は浜梨や浜ブドウをつくっている山本果樹園を訪ねてきました。私も担任と一緒に同行して山本さんからお話を伺いました。「祖父から孫まで5代にわたって新田小学校です」と柔らかい笑顔でお話ししてくださいました。浜梨はとてもおいしい梨で、市場に出回らないため、なかなか口にすることができません。私も知り合いの農家から購入したことがあるのですが、水分が多く本当においしい梨です。山本さんのお話の端々に自分の育てている梨やブドウへのプライドや愛情を感じました。誇りをもって仕事をしている本物の職業人の姿に触れることで、子どもたちは多くの事を学ぶことができたと思います。また、4年生はシクラメン農家の加藤さんから、一人一鉢のシクラメンをいただきました。加藤さんから「このシクラメンを大切に育てて、6年生の卒業式で式場に飾ってあげて」とお話ししてくださいました。一人一鉢くださったのは、自分で責任をもって育ててほしいからだそうです。そこにもシクラメンを大切に育てきれいな花を咲かせる加藤さんの仕事に対する誇りを感じました。

昨年度の5年生は新羽地区に古くから伝わるわらへびを題材にして取り組みました。西方寺のご住職や大谷佐一さんや長谷川武明さんをはじめとした保存会の方々のご協力で、学びの多い学習ができました。野菜作りについては、以前この学校便りでも紹介させていただいた西山さんにお世話になっています。ここには書ききれませんが、ご紹介させていただいた方以外にも本当にたくさんの地域の方々にご協力いただいて、子どもたちは学んでいます。子どもはまちで育つ、正にその通りだと思います。心より感謝申し上げます。